

審議会、県民等アンケート調査の要点整理

	県民・文化活動団体等へのアンケート結果の特徴	平成22年第1回・第2回審議会での主な意見	中間報告案への反映
県民	<ul style="list-style-type: none"> 県立美術館等小中高生等無料化の周知度は依然低い (23.3%) 文化施設が地域の文化活動の拠点となるために力を入れることは、「催し物のPRを充実30.5%」「鑑賞機会を充実29.8%」など 	<ul style="list-style-type: none"> 近美にカフェ等をつくりイメージアップ (①大谷委員) 友の会の会員増を図るべき (①若林) 文化の環境格差をなくすためにもIT技術の活用を (①本川委員) 子どもたちが触れる事が大事、アウトリーチを充実 (①吉川委員、若林委員、②本川委員) 	<ul style="list-style-type: none"> インターネット等新しいメディアを活用したPRを促進する。 バーチャルミュージアム、総合ポータルサイトによる情報の発信に取り組む。 学校教育における文化活動の充実と地域における文化活動への理解の促進に取り組む。
		<ul style="list-style-type: none"> 指導者招聘、芸術文化アドバイザー派遣事業は効果的、継続を (①可西委員) 県民ふれあい公演事業は身近な所で鑑賞できる良い事業 (①舟本委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 「練習の場の確保」、「発表の場・批評の場の確保」等により、練習専用施設のPRや料金割引制度の周知、指定管理者による弾力的な取組みを推進する。
	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動している人が少ない (していない人93.8%) 	<ul style="list-style-type: none"> 地域のボランティアによる地域文化発信は活発化 (①上野委員) ボランティア養成・人材活用をシステム化 (①畠山委員、舟本委員、吉田委員) 地域ボランティア等社会教育等との連携が必要 (①山西委員) 学校に文化の専門家が日常的に居る文化エキスパート制度 (①山村委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 主な重点施策である「支援する人々と協働の促進」、「県民の文化活動への参画の促進」により、文化ボランティアの養成、友の会等との連携等の取組みを一層推進する。 県民参考指標の一つとして「地域文化に係るボランティア活動者数」を設定し、ボランティア活動の参加者拡大を目標として取り組む。
	<ul style="list-style-type: none"> 民俗芸能の継承等で特に力を入れたらいいこととして、子どもたちが演じられるよう学校教育で取り組む (36.8%) 子どもが文化に親しむために特に力を入れることは、文化鑑賞の機会等を学校教育の場で充実 (61.2%) 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちに芸術文化に多く親しめる機会を作る (①大谷委員) 子どもの文化活動に国の予算をもっと回してほしい (①酒井委員) 学校教育の中で文化と関わる活動を、そのため人材育成を (①山西委員) 地域の祭りなど地域をうまく活用しつつ、学校の中で伝承 (①吉川委員) 若手芸術家の育成・雇用確保 (①伊藤委員、可西委員、若林委員) 教育との連携は、文化を身近にしようということの裏返し (②富樫委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 主な重点施策に「若手芸術家の育成」、「伝統文化・伝統芸能の後継者育成」を追加し、取組みを推進する。 「次世代を担う子どもたち、青少年の文化活動の充実」で若手や青少年の育成を推進する。 「学校教育における文化活動の充実と地域における文化活動への理解の促進」、「伝統文化への参加と体験の機会の確保」に取り組む。
		<ul style="list-style-type: none"> 地域の文化施設を芸術拠点として人材を確保し、支援 (①伊藤委員) 第1回とやま世界こども舞台芸術祭の開催は、大きな成果 (①可西委員) 文化交流には、人の輪、知恵の輪が必要 (②吉田委員) 富山県は文化の宝庫であり、振興に際し焦点を絞るべき (①金山委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 利賀を東アジアの舞台芸術の拠点とするなど「国内外に発信する文化芸術事業」の取組みを一層推進する。 「とやま世界こども舞台芸術祭等芸術団体等による創造と発信の推進」に取り組む。
	<ul style="list-style-type: none"> 国内外に誇れる文化等は、世界遺産「五箇山合掌造り集落」などの歴史的な町並み・集落、建造物 (70.9%) 	<ul style="list-style-type: none"> 職人の後継者養成が重要 (①池上委員、上野委員、畠山委員、会長)、伝統産業において、実際に活躍できる職場が必要 (②伊藤委員)、県内で活躍・文化を継承している職人のデータベース化 (②上野委員) 文化資源の発見と活用に取り組むべき (①池上委員、上野委員) 早急な景観保全が必要。観光面では富山の原風景での農業体験なども富山の魅力 (①上野委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 主な重点施策に「伝統文化・伝統芸能の後継者育成」を追加し、取組みを推進する。 主な重点施策に「歴史と文化を活かしたまちづくり」、「ふるさと文学の振興とまちづくり」を追加し、取組みを推進する。 主な重点施策である「文化を活かしたまちづくり・地域づくり」、「文化を活かした観光の振興」の取組みを一層推進する。
		<ul style="list-style-type: none"> インターネット等情報通信技術による発信を強化 (①山西委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 「最新の情報技術を使った鑑賞の充実」等により、文化情報の一元的・総合的発信に取り組む。
	<ul style="list-style-type: none"> 文化が息づくまちづくりに関し力を入れることでは、「文化を活用した観光振興と連携したまちづくりを進める」の割合が増加 (前回33.3%→今回37.9%) 	<ul style="list-style-type: none"> 富山の文化性である里山・里海の生活文化の掘起こし必要 (①川合委員) 地元企業、文化団体を有機的に結合する知恵のセンターが必要 (②川合委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 主な重点施策である「文化を活かした観光の振興」の取組みを一層推進する。 「文化を活かした観光の振興」、「文化を活かしたまちづくり・地域づくり」により、様々な主体の連携による取組みを推進する。

	県民・文化活動団体等へのアンケート結果の特徴	平成22年第1回・第2回審議会での主な意見	中間報告案への反映
	<ul style="list-style-type: none"> 文化が息づくまちづくりに関し力を入れることでは、「地域の歴史、文化、自然を活かした伝統芸能や祭りの継承、発展を図る」(44.0%) 「元気とやま創造」のための重点施策で「文化活かして中心市街地の賑わい創出」の割合が増加(前回20.2%→今回26.0%) 	<ul style="list-style-type: none"> 文化資源の発見と活用に取り組むべき(①池上委員、上野委員) <再掲> 賑わい創出とともに生きがいが必要(②吉田委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 主な重点施策に「歴史と文化を活かしたまちづくり」、「ふるさと文学の振興とまちづくり」を追加し、取組みを推進する。 主な重点施策である「文化を活かしたまちづくり・地域づくり」の取組みを一層推進する。 主な重点施策である「食文化の魅力を全国に発信」等により、食文化の魅力発信、食育運動の取組みを一層推進する。
		<ul style="list-style-type: none"> 県民が富山の食材や料理の良さを学び知ることが富山の食文化の向上に(①安井委員) 食文化の伝承等を学校教育にとり入れる(②吉川委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 主な重点施策である「文化を活かした産業の振興」、「最先端のものづくり文化の創造」の取組みを一層推進する。
		<ul style="list-style-type: none"> 文化と産業との連携(①富樫委員) 横断的・相互連携的な視点で文化施策を(①斎藤委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 主な重点施策に「伝統文化・伝統芸能の後継者育成」を追加し、取組みを推進する。 次世代を担う子どもたち、青少年の文化活動の充実で若手や青少年の育成を推進。特に、学校教育における文化活動の充実と地域の文化活動への理解の促進で校外、地域の文化活動への参加を促進。 学校教育における文化活動の充実と地域の文化活動への理解の促進、伝統文化への参加と体験の機会の確保に取り組む。 地域の人々の参画の促進、発表の場・批評の場の確保等に取り組みながら、地域の文化資源を活かしたにぎわいづくりの促進(p.76)を目指す。 練習の場の確保、発表の場・批評の場の確保等により、練習船用施設のPRや料金割引制度の周知、指定管理者による弾力的な取組みを推進する。
文化活動団体、支援団体等 (回答61団体)	<ul style="list-style-type: none"> 文化活動の向上に必要なこととしては、後継者の育成、若い人材の確保(17)、他団体、地域、異分野との交流(11)との意見が多く、課題となっている。 次代の文化の担い手の育成に団体が果たせる貢献・役割としては、出前公演等の学校教育との連携(10)との意見がある一方で、学校(行政)の理解・協力体制が課題(17)との意見が多い。 本県の文化を地域づくりに活かす方策としては、地域の人々自らの発信(6)、後継者及び指導者の育成(5)が必要との意見が多い。 <その他の意見> 日常の活動については、施設使用料の低減・無料化(20)、練習・発表場所の確保(16)の要望が多い。 文化施設への要望・活性化策については、発表の場の確保(13)、施設利用料の低減や無料化(12)、設備の充実(11)との意見が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 県の文化財団の役割が今後非常に重要(②伊藤委員) 	
市町村 (回答15団体)	<ul style="list-style-type: none"> 次代の文化の担い手としての子ども施策については、参加・体験型の事業の実施、優れた芸術文化に触れる機会の提供が必要との意見が多い。(H18調査では、学校と地域との連携、伝統文化の継承の取組みが必要との意見が多かった) 県に対しては、資金面での支援、大規模な芸術文化事業の展開、自治体間の交流促進などを期待している。(H18調査では県内活動事例に評価と周知、コーディネートの役割、指導支援などの要望が多かった) <その他の意見> 富山の文化が評価・発信されるために必要なこと→マスコミ等を利用した情報発信(4)、交通整備や観光的側面等の他分野との連携(2) 「宝もの」を評価、地域づくりに生かし発信に必要なこと→継続した情報発信(3)、地域文化の正しい評価及び紹介(2)、地域住民が「宝もの」を誇りに思う必要性(2) 市町村における文化施設の課題→施設の老朽化等による改修(10) 	<ul style="list-style-type: none"> 外へのPRが必要(②舟本委員、畠山委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育における文化活動の充実と地域の文化活動への理解の促進、伝統文化への参加と体験の機会の確保に取り組む。 県の役割として、①鑑賞・創造・交流の機会確保、②質の高い文化の創造・発信の支援、③他分野との連携のコーディネートを提示。また、巡回展示や出前公演等による鑑賞機会の充実にも取り組む。 富山固有の文化の発掘と県民による再認識と発信(p.65)に努めるほか、文化と他分野との連携(p.74)に取り組む。 主な重点施策に「歴史と文化を活かしたまちづくり」、「ふるさと文学の振興とまちづくり」を追加し、取組みを推進する。
企業 (回答45社)	<ul style="list-style-type: none"> 地域の文化行事への寄付は半数を超えている(27)。 文化事業・活動を支援する理由としては、地域活性化への貢献を挙げる社が多い(20)。 今後もできる限り支援したいとする社が多く(20)、支援内容としては従業員ボランティア協力など人的支援(8)のほか、資金面(6)、協賛広告等(5)、などが挙げられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 国民のコンセンサスが弱い(②金山委員) 知識基盤を共有する中から資金基盤を拡充する方法を開拓する(②池上委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 主な重点施策である「支援する人々と協働の促進」、「県民の文化活動への参画の促進」の取組みを一層推進する。(p.56)